

保護者様

広島市立安西中学校
校長 遠藤 秋実

「基礎・基本」定着状況調査の結果について

初秋の候、皆様にはますますご健勝のことと思います。

さて、6月13日に2学年の生徒を対象に実施しました標記の調査の結果が次のようになりましたのでお知らせします。今後とも学力がさらに定着するよう取り組んでいきますのでよろしく願いいたします。なお、生徒に当日の問題と解答用紙及び正答例を返却しておりますので、参考にしてください。

1 国語

(1) 全体の通過率

県平均 82.1% (市平均 80.9%) 安西中学校平均 81.9%

(2) 通過率の分析と傾向

聞くこと、言語事項(漢字・語句)については、県平均よりも高かったが、書くこと読むことの領域では、若干下回った。全体としては、ほぼ同じであった。

- ・「聞くこと」聞くことに関しては、良くできている。
- ・「書くこと」伝えたい事柄や自分の考えを明確にすることが苦手な生徒がやや多い。
- ・「読むこと」文章の内容を正確にとらえる問題では、本校だけでなく県全体でも通過率がほぼ半分となっていた。
- ・「言語事項」全般的に高い通過率である。ただ、県平均と比べると、漢字の書き取りや敬語の使用の通過率がやや低い。

(3) 今後の取組の重点や配慮事項

- ・説明的文章においては、指示語、接続語に着目した文章の読み取りをさせる。また、文学的文章では登場人物の心情に迫る読みとりができるよう、指導する。
- ・繰り返し学習ができるよう、漢字プリントを配布するなどする。また、小テストを実施するなどして、確認・復習ができるように工夫する。
- ・達成感を感じられるような取り組みをする。
- ・短い文章でもよいので、自分の考えを文章にする機会を多く持つ。

2 数学

(1) 全体の通過率

県平均 71.4% (市平均 70.8%) 安西中学校平均 73.6%

(2) 通過率の分析と傾向

数と式、図形、数量関係ともに通過率が県平均を上回っていた。

- ・「数と式」 正の数・負の数の計算に関しては非常によくできているが、文字式の計算や一次方程式での計算ミスが少し目立つ。
- ・「図形」 空間における直線の位置関係の理解がやや不十分である。また、面積や体積・長さなどを求める問題は、県平均を上回るものの、他の問題と比べて通過率がやや良くない。
- ・「数量関係」他の2つの領域と比べて、本校だけでなく県全体でも通過率がやや低くなっている。比例反比例といった基本的な関数の考え方は理解できているので、ここから発展させて指導していきたい。

(3) 今後の取組の重点や配慮事項

- ・「数と式」 方程式の学習において、学習カルテを用いて計算ミスをしやすい箇所を把握させ、自分の弱点を反復して練習し、克服する取り組みを通して、自信をつけさせる。
- ・「図形」 冬休みの宿題で、1年生での学習内容をもう一度確認させていく。また、証明の学習の中で、根拠や結論を考える場面と仲間との考えを比較検討する場面を設定する。
- ・「数量関係」 一次関数の学習を通じて、日常生活の中での出来事に関数の考え方を生かせるような事例を扱っていき、具体的な問題解決に取り組む。

3 英語

(1) 全体の通過率

県平均 76.3% (市平均 74.9%) 安西中学校平均 75.9%

(2) 通過率の分析と傾向

聞くこと・読むことにおいては、県平均を若干下回ったが、書くこと・話すことにおいては、県平均を上回っている。全体ではほぼ同じであった。

- ・「聞くこと」 会話が行われている状況や場面の聞き取りは非常に良くできているが前置詞や数についての聞き取りが弱い。
- ・「読むこと」 会話の流れの読みとりや、疑問詞の知識などは高い反面、アルファベットや数についての知識が若干弱い。
- ・「書くこと」 場面に応じて自分で簡単な英文を作成する問題では、本校だけでなく県全体でも通過率が半分以下とかなり低い問題もあった。
- ・「話すこと」 実技による聞き取り調査で行った領域で、ほぼ適切に応答できているが、What time～?に対する応答が低く、ここにも数が関係している。

(3) 今後の取組の重点や配慮事項

- ・家庭でもそれぞれが練習できるように、授業での音読練習を充実させる。授業開始時、可能な限り毎回2分間各自が練習する時間をとる。また、互いが教え励ましあって取り組めるような人間関係を築く。音読、暗唱の進度を教室掲示し、積極的に取り組む環境を作る。
- ・授業の始めに宿題点検をすることにより、宿題をやり遂げる重要性を意識づけたい。自主学習ノートは毎週提出を定着させる。そのために、教室掲示をしたり、また練習をすることが学力向上につながることを、ねばり強く指導していく。また、その成果を確かめるための小テストの回数を増やす。

4 生活と学習に関する意識・実態

(1) 改善したい点

- ・生活リズムが不安定な生徒（平日の起床就寝の時間が決まっていない）が4分の1をしめていること。
- ・「将来の夢や目標はかなうと思います」という質問に対して、半数近くの生徒が目標に対して不安を持っていること。
- ・学習の計画性がない生徒が4分の3を超えており、家庭学習の時間が1日1時間以下の生徒も4分の3とほぼ一致していること。

(2) 今後の具体的な取組の内容

- ・日常の生活指導や、全体での指導、教育相談などを通じて指導を重ねていく。
- ・キャリア教育を通じて将来に希望の持てる指導を充実していく。
- ・教科と連携した学年での指導を進めていく。